

高い洗浄効果を確認

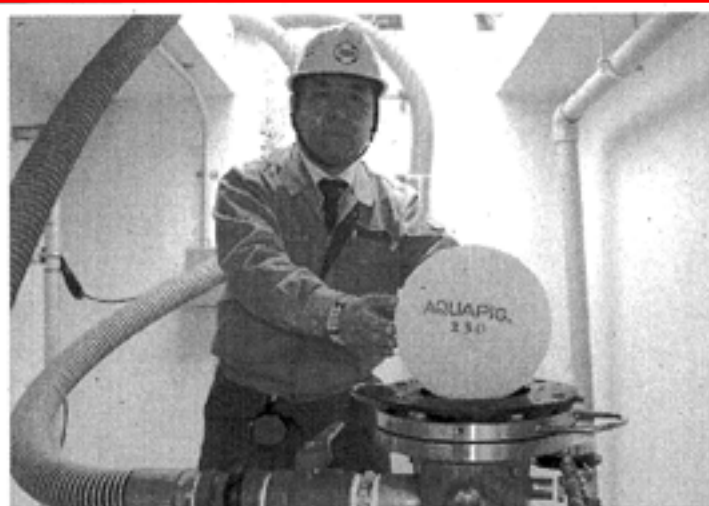
中里建設 アクアピグ工法 那珂市で公開施工

中里建設(本社・栃木県佐野市、中里建設長)が開発したアクアピグ工法の採用が増加している。3月7日、8日の両日には茨城県那珂市で同工法による洗浄施工が公開され、良好な結果を得た。

同工法はピグの表面に特殊コーティングを塗布することなく高い洗浄能力を発揮する点だ。チーズ管、異形口径、曲り、山越し、伏せ越しなど多様な管路形状、環境に適用できる。1区間の洗浄距離も長く設定でき、経済性にも優れている。これも最大で1区間の施工延長は1950mの実績がある。既存の消火栓や空気弁を活用してアクアピグを投入・回収できるため、管切断などの工事が不要で、交通規制範囲も狭く、断水による近隣

住民への影響も軽減できる利点がある。更に安全性も高い。アクアピグ自体が水を通すため、管内圧力上昇による管破壊がない。流量計や圧力計で洗浄状況を確認しながら洗浄するため、異常が発生しても即座に把握できるほか、ピグの現在位置を把握することができ。また、錆こぶや狭径部の通過時にアクアピグの破損・損傷を最小限に抑えることができる。

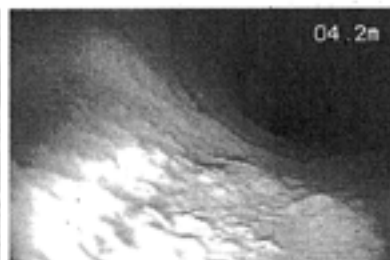
公開施工は那珂市後台地内で行われた。φ150の導水管(ポリエチレン管「ホリエチレン管」)を洗浄するもの。地下水が原水だが酸化鉄またはマンガンの成分が導水管内に付着し、閉塞状態にあり、流量が低下していた。このため、導水管内固着物を除去し、取水量及び水質の回復を図るためアクアピグ工法が採用された。



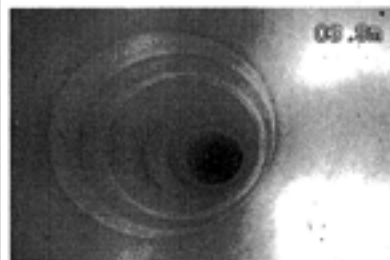
アクアピグを投入する中里社長



アクアピグの回収の様子



洗浄前の管内の状況



洗浄後の管内の状況

施工は7日間

公開施工は那珂市後台地内で行われた。φ150の導水管(ポリエチレン管「ホリエチレン管」)を洗浄するもの。地下水が原水だが酸化鉄またはマンガンの成分が導水管内に付着し、閉塞状態にあり、流量が低下していた。このため、導水管内固着物を除去し、取水量及び水質の回復を図るためアクアピグ工法が採用された。

問い合わせは「JFE商
事鋼管管材新潟支店
(電話025-260-
0221)まで。

5月17日開催
新潟で鋼管
フォーラム
JFEなど5社
JFEスチール、JFE
E継手、シーケール金属、
第一高周波工業、レッキ
ス工業は5月17日、新潟
市中央区の新潟ユニゾフ
ラザで「鋼管技術フォー
ラム」を開く。定員は1
00人参加費は無料。
第一部で東日本大震災
における設備・配管被害
状況報告の講演、第二部
でポリ粉体鋼管と転造ね
じなどによる安全・安心
で地球環境に優しい配管
システムを紹介する。
第一部は東北空調衛生
工業協会の峰田喜次郎
・技術委員長を講師に空

第一
の
見、
同研
返る
展開
井山

わたりφ170からφ300のピグを10回投入し、良好な結果を得た。近隣の水道事業体も視察に訪れ、高い洗浄効果に興味を示していた。那珂市水道課は「導水管が閉塞し、流量が低下していることがわかり、洗浄工法で対応することにした。初めての試みだったが効果は高い。やって良かった」と思っている。今後は様子を見て、水量が落ちたら再度洗浄を考えたい」と高く評価した。

中里建設の中里社長は「これまで20力所以上で施工しているが、全て良好な結果が出ている。今回は酸化鉄やマンガンが付着しており大変だったが無事洗浄できた。今後もアクアピグ工法の普及に尽力していきたい」と話している。

以下
▽大
水汚
間健
課長
課長
質を持